資料2

黒字:名寄市の既存計画に記載 赤字:委員会の意見を踏まえて追加

想定される取組			第1~2回委員会のご意見		対象	対象	
基本方針	施策	具体的な取組	内容·課題等	市民	事業者	行政	
		暖房や照明機器等の節電モードの利用や長時間使用しない時の電源OFF	暖房や照明のこまめな電源オンオフ	0	0	0	
		マイカー利用を控え、徒歩・自転車・公共交通機関などによる移動	てくTECH活動との連動	0	0	0	
		クールビズ、ウォームビズの実践	クールビズを実施		0	0	
	環境に配慮した行動の推進	エコドライブの実践		0	0	0	
		ICT機器の活用による業務等の効率化	ドローンの活用、ICTを活用した教育		0	0	
		働き方改革の推進	農閑期は時短労働		0	0	
基本方針1 省エネルギー		宅配便の再配達の削減	宅配ボックスの設置補助	0	0		
の推進	省エネルギー性能の高い設備・ 機器の導入	HEMSやBEMSなどを活用した効率的なエネルギー管理	HEMSによってエネルギー使用量が見える化できる	0	0	0	
		省エネ性能の高い設備・機器の導入	LEDを導入した	0	0	0	
	建築物の省エネルギー性能の 向上	既存住宅・既存建築物の断熱性、遮熱性向上	建物を白塗りすることで、遮熱性を高められる。白い 建物の景観が名寄の特色になるのでは。	0	0	0	
		既存住宅の断熱改修工事の啓発		•	•	0	
		新築住宅・新築建築物へのZEH・ZEBの導入	ZEBの建設を検討した	0	0	0	
		ZEH・ZEBなどの導入促進		•	•	0	
		省エネ基準への適合指導		•	•	0	

資料2

黒字:名寄市の既存計画に記載 赤字:委員会の意見を踏まえて追加 ○:実施者●:受け手

想定される取組 第1~2回委員会のご意見 対象 市民 事業者 行政 基本方針 施策 具体的な取組 内容·課題等 太陽光発電や蓄電池の導入 太陽光パネルの設置 0 0 0 再生可能エネルギーの普及·活 木質バイオマス、雪冷熱、風力発電等の導入 雪氷冷熱を農協倉庫で利用している \circ 水素エネルギーの調査・研究 水素エネルギーの活用 0 太陽光発電や蓄電池の導入促進 0 基本方針2 再生可能エネ 再生可能エネルギーの導入促 ルギー等の促進 進 PPAモデル等事業手法の周知・普及 0 民間事業者との連携による地域新電力など事業体の検討 0 0 市内の山林などで発生する未利用材(間伐材や林地残材など)の有効活用 0 再生可能エネルギーへの有効 もみ殻の燃料への活用 もみ殻の活用 \circ 活用

ごみの焼却で発生する廃熱利用の検討

0

資料 2

黒字:名寄市の既存計画に記載 赤字:委員会の意見を踏まえて追加

想定される取組		第1~2回委員会のご意見		対象		
基本方針	施策	具体的な取組	内容·課題等	市民	事業者	行政
		排出される廃棄物の減量化		0	0	0
		廃棄物の適正な資源化の推進		0	0	0
		食品ロスの削減		0	0	0
	3R(リデュース・リユース・リサ イクル) の推進	割り箸・紙コップ等の使用自粛(マイカップ等利用促進)		0	0	0
基本方針3 循環型社会形成の推進		グリーン購入の推進		0	0	0
	資源の再利用促進ペーパーレス化の推進 ごみの適正な分別の推進	資源の再利用促進		0	0	0
		ペーパーレス化の推進	行政手続きのペーパーレス化、タブレットの使用	0	0	0
		ごみの適正な分別の推進		0	0	0
	廃棄物の適正処理	分別排出指導の推進		•	•	0

資料2

黒字:名寄市の既存計画に記載 赤字:委員会の意見を踏まえて追加

想定される取組			第1~2回委員会のご意見		対象	
基本方針	施策	具体的な取組	内容·課題等	市民	事業者	行政
	コンパクトなまちづくりの推進	まちなか居住の検討		0		
		空家の流通促進、有効活用		0	0	0
		まちなかへの居住等の促進				0
	公共交通の充実と物流の効率化	物流事業者との連携によるゼロカーボン物流の拠点機能構築			0	0
		物流の効率化	積み荷の待機時間削減		0	0
基本方針4 脱炭素型のま ちづくりの推進		除雪の効率化	除雪箇所の適正化		0	0
		効率的で利便性の高い公共交通網の形成	デマンドバスの利用	•		0
		次世代自動車の導入(PHEV、EV)	行政や貨物車両のEV車導入	0	0	0
		電気自動車の充電施設の設置	公共施設や商業施設への充電設備の設置		0	0
		次世代自動車、充電施設の導入啓発		•	•	0
		ゼロカーボン・ドライブの推進(太陽発電でEV充電)		0	0	0

資料2

黒字:名寄市の既存計画に記載 赤字:委員会の意見を踏まえて追加

想定される取組			第1~2回委員会のご意見		対象	
基本方針	施策	具体的な取組	内容·課題等	市民	事業者	行政
		緑化活動や緑の保全活動の推進		0	0	0
		公園・緑地の保全				0
基本方針5 CO2吸収源の 確保	CO2吸収源	適切な森林整備の推進		0	0	0
		環境負荷軽減に配慮した農業の推進			0	0
		Jクレジット制度の活用	Jクレジットとして補助金をもらっている		0	0
	人材育成の推進	地球温暖化対策に関するイベント等への参画	脱炭素セミナーへの参加	0	0	0
		子ども向け環境教育の実施	子どもから大人への意識醸成	•		0
	情報発信の充実連携体制の充実	地球温暖化対策に関する出前講座やイベント等の開催	正しい情報発信が必要、脱炭素セミナーへの参加	•	•	0
基本方針6 環境教育・連 携体制の推進		省エネ対策による家計へのメリットやエネルギーの見える化ツール等の情報発信	・省エネクイズが家庭の省エネ対策に有効・ほくでんエネモールによる電力の見える化	•		0
		Yorocaと連携したポイント制度導入やエネルギーの見える化等の実施検討	・節電効果が見えると意識が高まる ・歩行距離とCO2削減効果の連動	•		0
		「名寄市省エネの日」の設立による、集中的な省エネ対策の実施	名寄市全体で省エネ対策をする日を設立する	0	0	0
		CO2を出さない体験型観光	カヌーやサイクリングなど、CO2を出さない観光商品として推奨		0	

| 土浦市エコパートナー事業

目的

市では,市と事業者とが緊密なパートナーシップを形成して地球温暖化問題,エネルギー問題及びごみ問題を改善することにより,次世代の子どもたちにより良い環境を引き継ぐことを目的として,協調して脱炭素社会づくり及び循環型社会づくりを行う土浦市エコパートナー事業を行っています。

エコパートナーとは

市内に事業所を有し、市域における温室効果ガス排出量の削減及びごみの減量等に率先して取り組む事業者で、「土浦エコパートナー協定」を締結した事業者をいいます。

事業者の役割

- 1. 事業活動における電気などのエネルギーの効率的な利用,事業活動におけるゴミの削減,地域社会の環境保全意識の高揚を図るための取組,社員への環境教育や啓発活動に係る計画及び実績の報告
- 2. 市の実施する環境イベント等への協力

市の役割

- 1. エコパートナーの取組の市民への周知
- 2. エコパートナーであることを示すステッカーの配付
- 3. エコパートナーが行う取組に対する支援



協定締結事業者一覧(R6.3.26現在)

事業者名をクリックすると、取組内容が見られます。

50音	事業者名
	株式会社IJTT
	株式会社アールビー
	イオンモール株式会社
ア行	イオンリテール株式会社
	いばらきコープ生活協同組合
	株式会社宇田川コーポレーション
	オリエンタルモーター株式会社 土浦事業所
	株式会社カスミ
	香取電池販売株式会社
カ行	共英製鋼株式会社 関東事業所
	栗田アルミ工業株式会社
	株式会社小泉東関東
	<u>柴沼醤油醸造株式会社</u> (NEW!!)
	株式会社ジョイフルアスレティッククラブ
	株式会社ジョイフル本田
サ行	株式会社常陽銀行
	水郷つくば農業協同組合
	株式会社スーパーマルモ
	<u>株式会社精工つくば工場</u> (NEW!!)
	<u>関彰商事株式会社ビジネストランスフォーメーション部第2統括土浦営業所</u> (NEW!!)
夕行	社会福祉法人 欣水会 特別養護老人ホーム 滝の園
	株式会社タナカ
	<u>塚田陶管株式会社</u>

※ 株式会社つくば電気通信 > 最新情報 > 土浦市とエコパートナー協定を締結いたしました

TOPICS

最新情報

土浦市とエコパートナー協定を締結いたしました

3月26日(火)に弊社つくば電気通信は土浦市とエコパートナー協定を締結いたしました。

土浦市が目指す「ゼロカーボンシティ」の実現のため、これからも地球温暖化やごみ問題、温室効果ガスの削減を行い、

土浦市と環境に配慮した取り組みを進めるための連携強化を図ってまいります。







部と派叶

世口为一部分腦鏈就イント專題





の削減で商品券プレゼント



音更町は、「ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、町民や事業者の皆さんとともに脱炭素社会の実現を目指 しています。

脱炭素社会の実現につながる省エネ行動により、前年と本年を比較して、電気・ガスのエネルギー使用量 の削減を達成できた参加者の方に、削減率に応じたポイントを付与します。

獲得したポイントは、「おとふけすずらんスタンプ会」が発行した、町内の各店舗で利用できる商品券と交換で きます(1ポイント1円相当で交換は500ポイント単位から)。

参加登録期間

- 10/31(未) 2024_年 **7**/**1**

※申請者が予定者数を超えた場合、参加登録期限より前に募集を締め切る場合があります。

スケジュール

参加 登録

2024年7月1日(月)~10月31日(木)

夏期/秋期/冬期の計3か月

2025年1月31日(金)まで

獲得!

2025年3月末ごろ

参加登録方法

右記のいずれかの方法で

【電子申請】

スマホでこちらの二次元コードを 読み込み、申請してください。▶

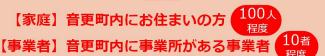


【紙面での申請】

<u>このリーフレット裏面の「参加登録申請書」</u> に必要事項を記入の上、ご持参または郵送で お送り下さい。

対象

【家庭】音更町内にお住まいの方



※必ず注意事項をご確認の上お申し込みください。

お申込み・お問合せ

町民生活部 環境生活課 温暖化対策係 音更町役場

スケジュール

人リン	<u> </u>		
	7月1日~	参加登録	○パソコン・スマホ・紙のいずれかで登録してください。
	10月31日	多加亞歌	(リーフレット表紙参照)
			○参加登録者へ下記の書類を送付します。
			①「参加登録通知書」
2024年		少てっ	②「結果報告書」 ※取組後にご提出いただく書類
	7月~12月	省工ネ 取組期間	○取組期間は、下記のうち計3か月です。 (51)カエル
			・夏期(7月又は8月のいずれか同じ月) (例]ウチは、 7月、10月、11月に
			・秋期(9月又は10月のいずれか同じ月) 取り組むぞ!
			・冬期(11月又は12月のいずれか同じ月) (************************************
	1月31日まで		○下記2点を提出してください。
			①結果報告書 ?
			②検針票の写しなど(前年と本年における取組期間3か月分の電
			気・ガスの使用量が確認できる書類)
2025年		ポイント	○電気・ガス使用量の削減率に応じて獲得したポイントを、「結果
			通知書」にて通知します。
	3月末頃		○役場環境生活課の窓口で、獲得したポイントを商品券に交換いた
			します(1ポイント1円相当で交換は500ポイント単位から)。
		文4X	交換の際には、「結果通知書」を必ずご持参ください。

削減率と獲得ポイントについて

- ○削減率は、前年と本年の3か月分の使用量の合計について、それぞれ日割計算を行い、前年と本年の1日あたりの使用量を比較して算出します。
- ○結果報告を行った方は、削減率に応じたポイントとは別に、参加ポイントとして一律500ポイントを獲得できます(削減率が2パーセント未満の場合も)。
- ○電気・ガスのどちらかだけに取り組むことも、両方に取り組むこともできます。ただし、両方に取り組んだ場合も、獲得できる参加ポイントは500ポイントです。

削減率ごとのポイント

参加ポイント

	2%未満	2%以上~ 5%未满	5%以上~ 10%未满	10%以上	結果報告書 + 検針票の提出で
電気	O p	1,000p	2,000p	3,000p	F00
ガス	0 p	1,000p	2,000p	3,000p	500 _p

【例 1】電気とガスの両方に参加登録し、①電気で10%、②ガスで5% 使用量を削減できた場合
①3,000p + ②2,000p + 500p(参加ポイント) = 計 5,500p

【例 2】電気だけに参加登録し、①電気で1% 使用量を削減できた場合
① 0p + 500p(参加ポイント) = 計 500p

注意事項

- ○同一の世帯で複数の申請をすることはできません。
- ○家庭部門・事業所部門それぞれ1回まで申請できます。
- ○前年・本年ともに、音更町内の同一住所・所在地における検針票などの提出が必要です。

何をしたらどれくらい省エネできるのかな? 表で確認して取組の参考にしてみよう!



💡 : 電気 🛮 💧 : ガス

	/	省エネ効果(年間)				
	省工や行動の例			使用量	¥	CO ₂
	冷房時の室温は 28℃を目安にする			30.24 kWh	1,259 円	16.1 kg
	エアコン(冷房)の使用時間を1日1時間	減らす	0	18.78 kWh	782 円	10.0 kg
	暖房時の室温は 20℃を目安にする	蓄熱式暖房機	(a)	313.0 kWh	13,033 円	166.8 kg
リビ	(機器1台、運転5時~24時、22℃→20℃)	ガスストーブ	•	13.59 m	16,663 円	67.6 kg
ン	医豆果日本体田吐服丸1 口 1 吐眼试2寸	エアコン	(a)	40.7 kWh	1,695 円	21.7 kg
グ	暖房器具の使用時間を1日1時間減らす (設定温度はエアコン 20℃、ガスストーブ 22℃)	ガスストーブ	•	3.77 m	4,622 円	18.7 kg
事	テレビ(32型)画面の輝度を最大から中間(こ調節する	(e)	27.1 kWh	1,128 円	14.4 kg
務	テレビ(32型)をつけている時間を 1 日 1 時	寺間減らす	(m)	16.79 kWh	699 円	8.9 kg
室	モップなどを使って掃除機をかける時間を 1 日	1 分減らす	(a)	5.45 kWh	227 円	2.9 kg
	デスクト		(a)	31.57 kWh	1,315 円	16.8 kg
	パソコンを使う時間を 1 日 1 時間減らす	ノート型	(m)	5.48 kWh	228 円	2.9 kg
	白熱電球を LED 電球に交換する		(a)	90.0 kWh	3,748 円	48.0 kg
+	冷蔵庫は季節に合わせて設定温度を「強」→	「中」に調節	(m)	61.72 kWh	2,570 円	32.9 kg
ッチ	食器を洗う時は低温に設定する	電気温水器		93.28 kWh	3,884 円	49.7 kg
ン	(1日2回、65L/回、設定温度 40℃→38℃)	ガス給湯器	•	3.28 mỉ	4,022 円	16.3 kg
バ	こまめにシャワーを止める	電気温水器	0	201.9 kWh	9,506 円	107.6 kg
ス	(42℃のお湯を流す時間を1分間短くする)	ガス給湯器	6	7.21 m	9,940 円	35.9 kg
· -	お風呂は間隔をあけずに続けて入る	電気温水器	(m)	465.8 kWh	19,396 円	248.3 kg
イ	(2時間経過後4.5℃低下したお湯200Lを加温)	ガス給湯器	•	17.06 m	20,917 円	84.8 kg
レ	使わない時は、電気便座のふたを閉める		(m)	34.9 kWh	1,453 円	18.6 kg

[※] エネルギーの消費量については、「実践!おうちで省エネ(北海道経済産業局)」における省エネルギーセンターの実測値を引用。

【電気】: 41.64円/kWh (2024年5月 北海道電力 従量電灯B 120~280kWh) 消費税込

【ガス】: 1226.1円/m3(2024年2月(一財)日本エネルギー経済研究所 石油情報センター 従量単価の平均から推計)消費税込

【水道】: 276.1円/m3(2024年5月 音更町HP上水道料金 メーターの口径25mm以下 超過料金 251円/m3に消費税課税)

[※] ガスの使用量については、都市ガス使用量を熱量から換算(LPガス10m3=都市ガス22.3m3)。

[※] 燃料の使用に伴うCO2排出係数については、「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧(環境省)」から引用。

[※] 各料金の単価は以下のとおり。

令和6年度 おとふけゼロカーボン推進ポイント事業参加登録申請書

必要事項をご記入の上、2024年10月31日(木)までに、 ご持参または郵送でご提出ください。なお、<u>電子申請で</u> 参加登録いただく場合は、紙の提出は不要です。



取組区分	□電気 1つまたは 2 つに □ガス チェックしてください。	
登録区分	□家庭 <u>どちらか片方に</u> □事業所 チェックしてください。	
住所 (または所在地)	〒 – 音更町	書類の郵送先となります。
省工之取組 対象建物 ※登録区分が「家庭」の場合は記入不要	〒 – 音更町	省エネに取り組む 建物が上記の住所・ 所在地と異なる場合 のみご記入ください。
事業者名 ※登録区分が「家庭」の場合は記入不要		
フリガナ		
氏名 (または代表者の職・氏名)		事業者の場合は、 代表者の職・氏名を ご記入ください。
電話番号		

※結果報告時には、音更町内の同一住所・所在地における前年・本年の使用量がわかる 検針票などの提出が必要ですので、ご注意ください。

お申込み・問合せ先

T080-0198

河東郡音更町元町2番地

音更町役場 町民生活部 環境生活課 温暖化対策係電話:0155-42-2111 (内線567)

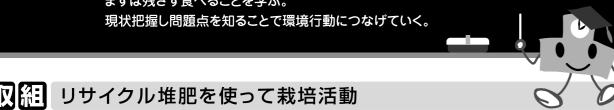
小学校の事例 清田区 北野小学校

保護者や地域の方々とともに畑づくり。 栽培と試食をとおして環境知識を深める。

学年ごとに様々な野菜を栽培。

札幌市のリサイクル堆肥を使い、保護者や地域の方々と一緒に畑づくり。

まずは残さず食べることを学ぶ。



本校には教材園の他に、以前青年会議所と共同で 栽培活動を行った畑がある。これを生かす形で、現在 では全校生徒が畑での野菜栽培を行っている。米ぬ かのリサイクル肥料を使用しながら、各学年の総合的 な学習の時間、理科、生活科に位置付けて食物を栽培 し、給食の献立にも活用する等、本格的にフードリサイ クルに取組んでいる。



「フードリサイクル | の掲示物

各学年の取組は以下の通りである。

1年生

ダイズを栽培し、エダマメとして収穫し、親子学習の 時間にPTAとともに試食。ジャガイモを栽培・収穫し、 6年生とともに「いももち」として調理。

2年牛

キュウリを栽培・収穫し、給食で「冷やしラーメン」の 具材として調理。ダイズ、ニンジンなどを栽培・収穫。

3年生

理科の学習と関連付けて、キャベツを栽培・収穫し、給食 で「厚揚げサラダ」として調理。ニンジンを栽培・収穫。

4年生

インゲンマメを栽培・収穫し、給食で「夏野菜カレー」 として調理。コマツナを栽培・収穫し、給食で「お味噌 汁」の具材として調理。ダイコンを栽培・収穫。

5年生

理科の学習と関連付けて、インゲンを栽培・収穫し、給 食で「夏野菜カレー」の具材として調理。

6年生

理科の学習と関連付けて、ジャガイモを栽培・収穫し、 1年生とともに「いももち」として調理。

※10月4日には1.6年生が作ったジャガイモ、2.3年生のニンジン、 4年生のダイコンを給食室で調理し、保護者や地域の方々と一緒 に試食する活動が行われた。

効果 体験的学習で給食の残量が減少

この取組により給食の残量が減っており、どの学年 の畑で作った野菜が使われているかを知ることで、よ り興味をもつようになっているように感じられる。栽 培にあたり、児童が自発的に水やりをするなど、きち んと責任をもって世話をしている。

さらに、5年生が地域のスーパーや商店に「フードリ サイクルをしていますか? | とインタビューする機会が あった。していない企業では、費用の面などでできない 理由があることを知り、リサイクル以前に「食べ物を残 さない | ことを実践する大切さを知ることができた。

土づくりから始まるフードリサイクル

フードリサイクルについては、肥料、その他学校が 負担しなくてはならない経費がある。9月からは、 次年に向けた肥料づくりをコンポストで米ぬかと野菜 くずを使用して行っている。担当の教員や栄養士を 中心に本で調べる、知人から情報を得るなどして行っ ているが、耕作や収穫作業は地域の方々や全職員の 協力のもとに成り立っているのが現状である。



収穫した野菜を献立で紹介

実社会の問題点を知り 正しい環境行動へ

育てて食べるだけで終わってしまうことのないよう に、子供たちが興味をもった時点で、教員が発展させ ていく工夫が必要である。教科へ位置付け方に、工夫 が必要だと感じている。

教科書やインターネットなどで調べるだけでは実感 することができないことを、直接体験しながら調べる 機会は、大変貴重であり、子供たちにとって「社会人と コミュニケーションを図る」「地域の現状(企業の内 面)を知る」機会ともなりうる。これらの体験をもとに、 さらに発展した内容に取組みたいと考えている。



堆肥を観察する子供たち



このような体験活動をとおして、子供たちは必ず何かを感じ取っていると思い ます。教員側も勉強が必要なため大変ではありますが、これからのために必要な ことだと思います。何がきっかけで環境に関心をもつかは分かりません。「フード リサイクル」は「食」という身近なものから環境を考える一手段であり、知識の幅 を広げる土台になればと考えています。外国で起きている災害や環境問題等と自 分との距離を縮めていけるような活動ができればと思っています。